

UNISEC/UNISON 衛星ワーキンググループでは2014年7月26日(土)に衛星情報共有の取り組みとして第8回の発表会を実施した。以下に、本発表会の実施結果を報告する。
資料フォルダ : <https://drive.google.com/?zx=3ayy45ss0yuc#folders/0B2sEjzZ-vtNGMVVSUmN4NXF0dVk>
(衛星WG関係者のみにアクセス可能)

1. 目的

1.1. 本取り組みの目的

UNISEC衛星団体に技術情報を共有し以下の効果を狙う。

- Ⅰ 各団体での開発活動の促進
- Ⅰ 将来的にUNISECとして、加盟団体が協力し一つのことを行う基盤作り

1.2. 本発表会の目的

- Ⅰ 口頭での発表による正確かつ効率的な情報共有の実施
- Ⅰ 発表者が発表と質疑応答を通じたその場でフィードバックを得られる機会の提供

2. 開催日時・開催場所

発表会の開催日時および概要を表 1にまとめる。

表 1 発表会概要

日時	2014年7月26日(土) 10:00-15:00
場所	東京大学 本郷キャンパス 工学部2号館212号講義室
発表内容	発表会 「電源」 2大学(日大、九工大) パネルディスカッション 「UNISEC×GPM」 ポスターセッション
参加者数	73名

3. 当日の流れ

3.1. タイムテーブル

当日は表 2に示すタイムテーブルを設定し運営を行った。
実際の発表会も概ねこのスケジュールに沿う形で進行した。

表 2 タイムテーブル

<https://docs.google.com/file/d/0BxMWOKrLGFsNz1RVamZXtms4N2JjX0wxQzZZQjVuajJnZExF/edit>

UNISEC 衛星WG 情報共有の取組み 第8回発表会 タイムテーブル				Last Update	2014.07.21 [MON]
実施日時	2014/07/26 [Sat]	10:00	-	15:00	※ 09:30 受付開始
実施場所	東京大学 本郷キャンパス 工学部2号館 212号講義室				
発表テーマ	電源系 “設計・試験”の指針について				

No.	開始	発表終了	終了	所要時間	内容	担当者
	10:00	-	10:05	0:05	諸連絡 (誓約書提出・アンケート説明等)	[運 営] (発表会担当?)
	10:05	-	10:30	0:25	衛星WG 情報共有の取組みについて	[運 営] (各委員会担当者?)
	10:30	-	12:00	1:30	パネルディスカッション (UNISEC×GPM)	(GPM相乗り団体代表者)
	12:00	-	13:00	1:00	休憩	-
1	13:00	13:15	13:25	0:25	SPROUTの電源系の設計から打ち上げまで	[日大] 藤原 彰太
2	13:25	13:40	13:50	0:25	高電圧技術実証衛星「鳳凰式号」の電源システムの軌道上実証及びLesson&Learned	[九工大] 田中 雄三
	13:50	-	14:00	0:10	休憩・移動・準備	-
	14:00	-	14:40	0:40	ポスターセッション	-
	14:40	-	15:00	0:20	アンケート記入/諸連絡	[運 営]
	-	-	15:00	-	発表会終了	

パネルディスカッション スケジュール詳細

No.	開始		終了	所要時間	内容	備考
	10:30	-	11:00	0:30	各団体の活動・衛星紹介	10分×3団体 ※ スライドあり
	11:00	-	11:30	0:30	議論テーマ (予め決まっている内容)	10×3テーマ
	11:30	-	12:00	0:30	質疑応答	

3.2. 発表会内容

今回は大きく3部に分けて発表会を行なった。

前半は、「パネルディスカッション(UNISEC×GPM)」である。ここでは、GPM相乗り団体のうち、筑波大(ITF-1「結」)、多摩美大、東大(INVADER)、阪府大(OPUSAT)から代表者をパネラーとしてお迎えして発表会を行なった。パネルディスカッションは今回が初めての試みだったが、同時に打ち上げられたGPM相乗り衛星製作団体を比較することによって、有意義な議論が出来たと考えられる。

中盤は、今までどおりの発表会スタイルで「電源系」をテーマに発表会を行なった。今回は発表者の都合もあり、発表団体は2団体であったが、テーマの電源系に関する詳しい発表をしていただいた。各発表の時間配分に関してはこれまでと同様に発表:15分、質疑応答:10分として実施した。

後半は、参加団体による「ポスターセッション」を行なった。本ポスターセッションでは、計10団体(九工大、九大、芝工大、首都大、創価大、筑波大、東海大、日大、阪府大、和歌山大)が各団体の活動紹介や独自衛星プロジェクトに関する説明を実施した。また、全員が一人一票持ち最も優れていると思う団体に投票を行ない、最優秀のポスターを決定した。その結果、九州大学が1位、日本大学が2位となった。1位の九州大学には景品として、昨年度に引き続きBoCCHAN-1を贈呈した。

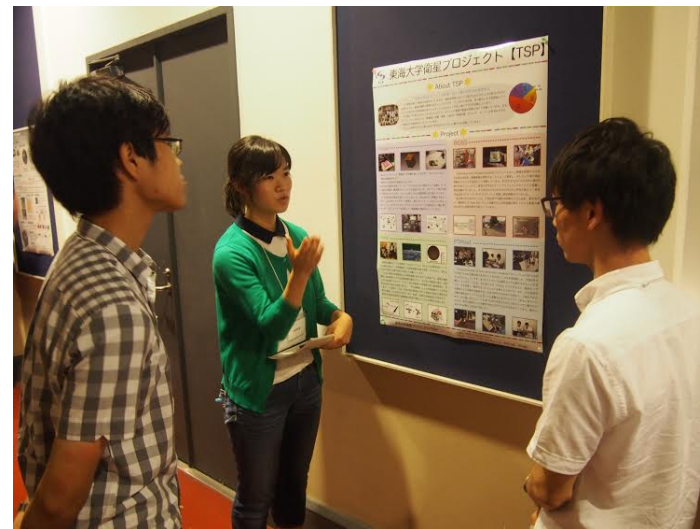


図 1 発表会・ポスターセッションの様子

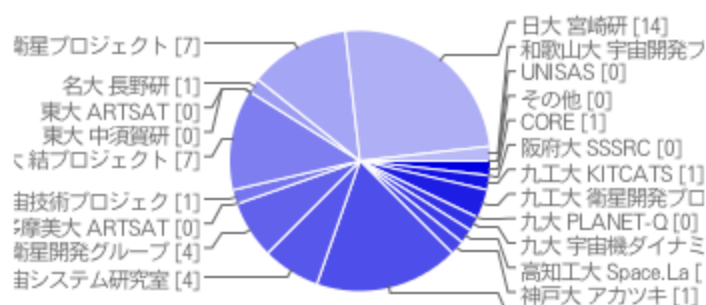
4. アンケート集計結果

当日行ったアンケートのうち、発表会全体に関する項目の集計結果を以下にまとめる。

4.1. 今回の発表会について

今回の衛星WG発表会では73名の方に参加していただいた。しかし、以下の用に団体別で見るとばらつきは大きく、今後幅広い団体に参加してもらえるイベントを心がける必要がある。

2) 回答者 所属団体



CORE	1	2%
阪府大 SSSRC	0	0%
九工大 KITCATS	1	2%
九工大 衛星開発プロジェクト	2	4%
九大 PLANET-Q	0	0%
九大 宇宙機ダイナミクス研究室	1	2%
高知工大 Space.Lab	1	2%
神戸大 アカツキ	1	2%
芝工大 衛星チーム	10	18%
首都大 宇宙システム研究室	4	7%
創価大 衛星開発グループ	4	7%
多摩美大 ARTSAT	0	0%
筑波大 宇宙技術プロジェクト	1	2%
筑波大 結プロジェクト	7	13%
東大 ARTSAT	0	0%
東大 中須賀研	0	0%
名大 長野研	1	2%
東海大 衛星プロジェクト	7	13%
日大 宮崎研	14	25%
和歌山大 宇宙開発プロジェクト	1	2%
UNISAS	0	0%
その他	0	0%

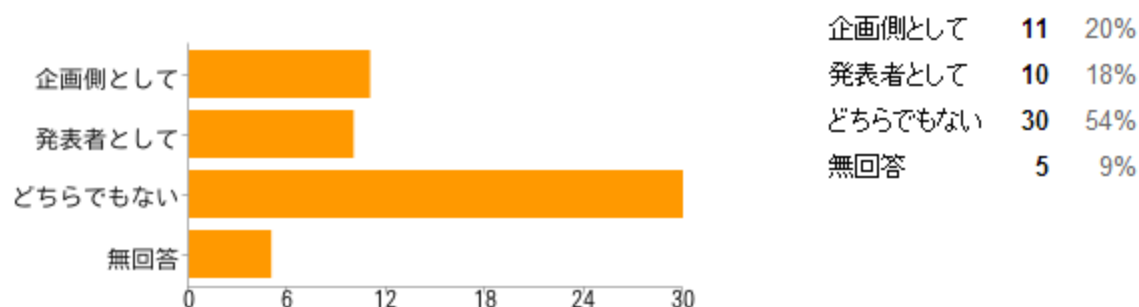
4.2. パネルディスカッションについて

失敗談に焦点をあてたテーマ設定は好評頂けたようである。ただし、「時間が短かった」「技術面に突っ込んだ話が少なかった」等問題点も複数挙げられた。パネルディスカッション形式のイベント自体は好評頂けたので、今後実施する際はこれらの反省点を生かしてよりよいものとしたい。

4.2. 取り組みへの参加について

今後、本取組へどのように参加したいかを「企画側」、「発表者」、「どちらでもない」の3択の選択式として質問した。回答の集計結果は以下の通りとなった。

⑤ 今後この取組みにどのように関わりたいですか



この質問はいままでの発表会で何度も聞いているが、徐々に「どちらでもない」という回答が増えているように感じる。UNISONは「互助の精神：互いに互いを助けあう」をもとに成り立っている組織なので、この点に関しては今後対策を考える必要があると感じる。

5. 総括

2014年7月26日に本取り組み8回目となる発表会を実施した。今回は平常の発表スタイルに加えて、ポスターセッション、さらには初めての試みとなるパネルディスカッションも行なった。発表会当日はいくつかトラブルもあったものの、会自体は概ね順調に終わることが出来、参加者の満足度も高かった。

今後はよりより情報共有を実施していくために、運営メンバーを中心に引き続き活動を行なっていく。

謝辞

本発表会の開催にあたっては会場の確保から発表会への参加まで様々な場面で多くの先生方にご協力を頂きました。感謝致します。